

令和3年の救急出場件数等について

1 救急出場件数及び搬送人員

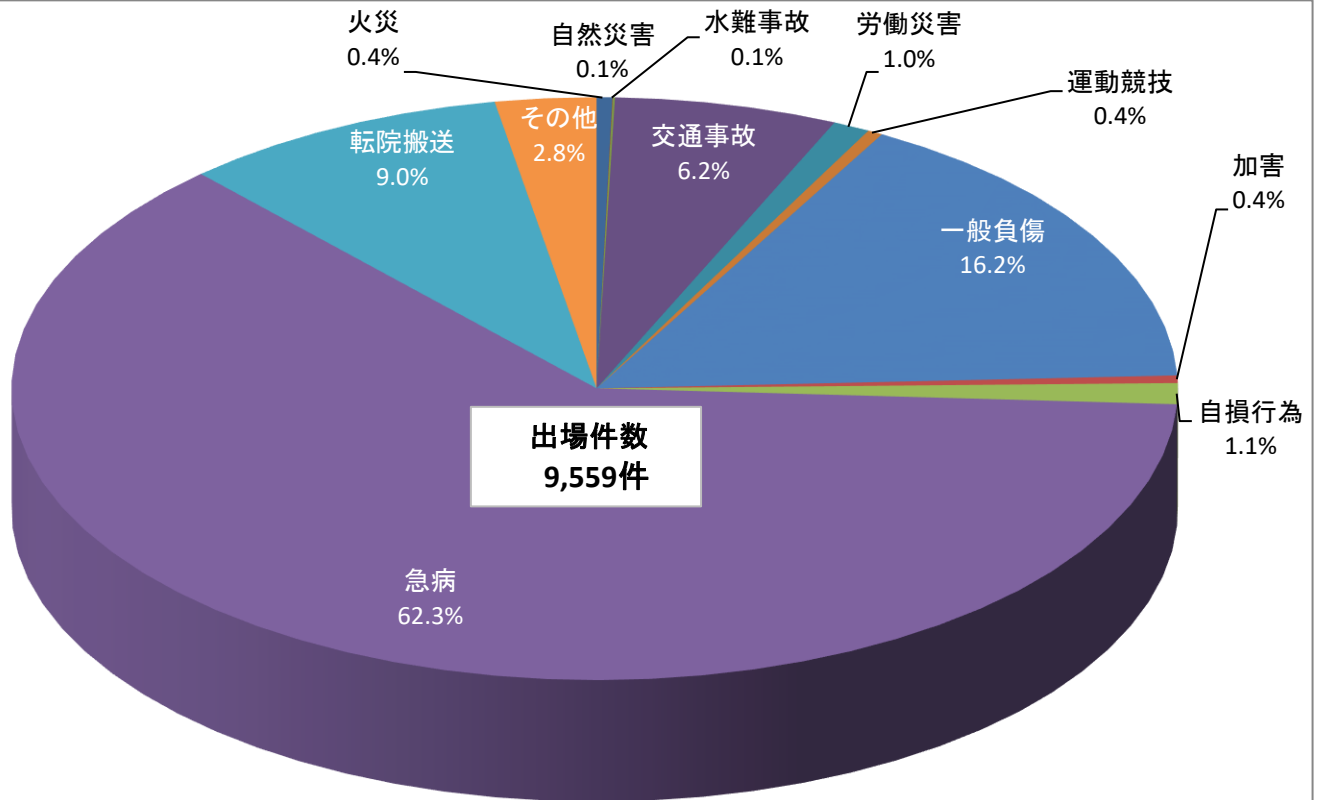
期間	出場件数			搬送人員		
	合計	宇部市	山陽小野田市	合計	宇部市	山陽小野田市
令和2年	9,146件	6,560件	2,586件	7,206人	5,142人	2,064人
令和3年	9,559件	6,865件	2,694件	7,658人	5,455人	2,203人
増減	413件	305件	108件	452人	313人	139人

- ・救急件数については、宇部市が305件増加、山陽小野田市では108件増加し、全体で413件増加しました。
- ・搬送人員については、宇部市が313人増加、山陽小野田市では139人増加し、全体で452人増加しました。

2 事故種別出場件数・搬送人員

[illegible]

令和3年の救急出場件数(グラフ)



・事故種別ごとによる出場件数で最も多い「急病」は5,955件で、全体の62.3%を占め、次いで「一般負傷」が1,546件で16.2%、「転院搬送」が864件で9.0%、「交通事故」が590件で6.2%となっており、令和2年と同様の順位となっています。

また、令和2年の出場件数と比較すると、「火災」、「労働災害」は減少していますが、それ以外の事故種別については増加しています。

3 今後の課題

・令和3年の救急出場件数は1万件を下回ったものの令和2年より413件増加しています。

新型コロナウイルス感染症の変異株が報告され、緊急事態宣言が発令、延長を繰り返される中、ワクチン接種や新しい生活様式が定着したことで徐々に新規感染者数が減少し、普段の生活が戻り始めたことにより、救急需要が増加傾向となったものと推測されます。

新型コロナウイルス感染症の新たな変異株の報告や感染拡大も予測される中、本消防局においても徹底した感染防止対策を講じるとともに、救急車適正利用の普及啓発に取組み、救命率の向上を図ることが課題となります。